

— 部門別の動き —

部門別の動き

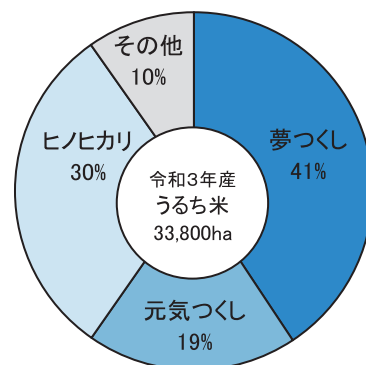
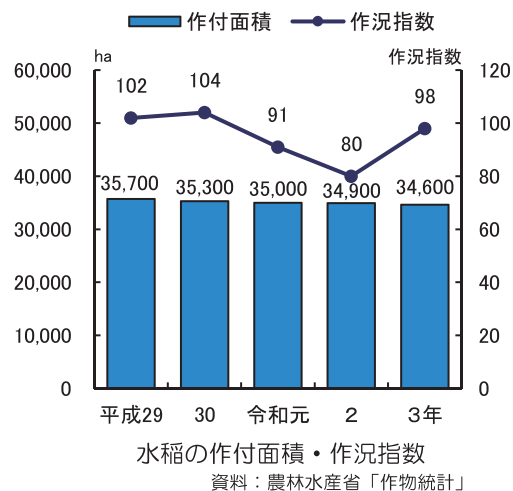
1 農業

(1) 水田農業

〇米

(作況指数は 98 の「やや不良」)

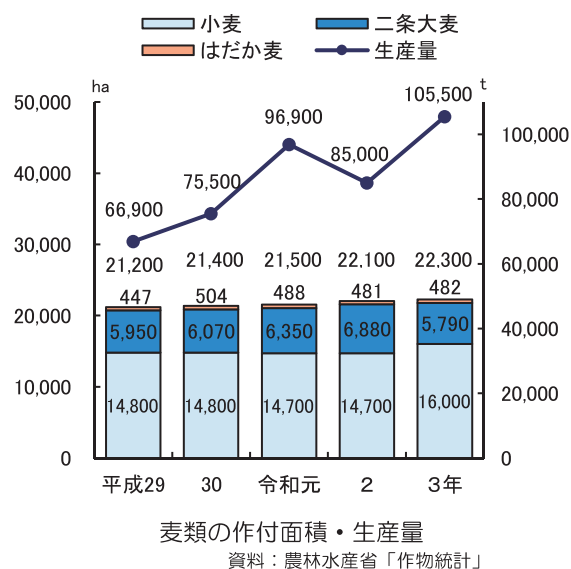
- ・作付面積は、前年に比べ 300ha 減の 34,600ha。生産量は、18,500 t 増の 163,700 t。10a 当たりの収量は 473kg、作況指数は 98 の「やや不良」。
- ・これは、8 月が低温・日照不足で経過し、全もみ数が平年に比べ少なくなったことが主な要因。
- ・うるち米全体に占める、県育成品種「夢つくし」と「元気つくし」の割合は、前年と変わらず「夢つくし」が 41%、「元気つくし」が 19%。
- ・高温でも品質が優れる「実りつくし」は、前年に比べ 70ha 増の 440ha。



〇麦

(麦は 4 年連続で豊作)

- ・作付面積は、前年に比べ 200ha 増の 22,300ha。生産量は、豊作だった令和元年産よりも 8,600t 多い 105,500t で、※ 平年^{*}に比べ 44% 増となり、4 年連続で豊作。
- ・これは、適期播種や排水対策の徹底により穂数を多く確保できたことが主な要因。
- ・小麦の生産量は、平年に比べ 24,900t 増の 78,100t、二条大麦は平年に比べ 6,600t 増の 25,400t。
- ・ラーメン用小麦「ラー麦」の作付面積は、前年並みの 1,820ha。生産量は平年に比べ 58% 増の 8,700t。

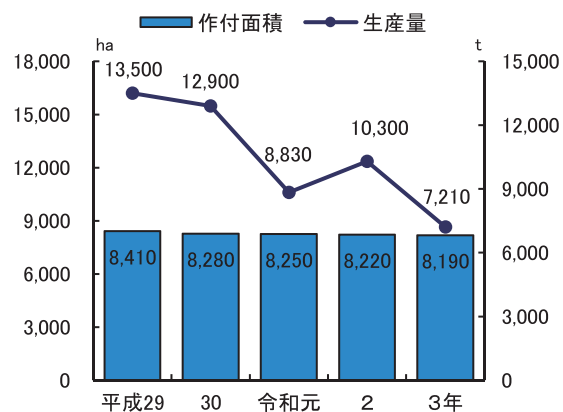


※生産量の平年値：平成 26 年産～令和 2 年産平均（直近 7 か年のうち最高及び最低を除いた 5 か年平均）。

○大豆

(大豆の作付面積は前年並み、生産量は 3,090t 減)

- ・作付面積は、ほぼ前年並みの 8,190ha。生産量は、前年に比べ 3,090t 減の 7,210t。
- ・これは、8 月の大雨により、主産地である県南部を中心に、冠水による被害が発生したほか、9 月下旬以降の乾燥により、粒肥大が抑制され、小粒傾向となったことが主な要因。



大豆の作付面積・生産量

資料：農林水産省「作物統計」

トピック

○ J Aむなかたでカントリーエレベーターを再編

- ・ J Aむなかたでは、国庫事業を活用して、津屋崎カントリーエレベーター（福津市）と光岡カントリーエレベーター（宗像市）を再編統合し、新たに、宗像カントリーエレベーターを宗像市に整備。
- ・ 当施設では、搬入前後の車両の重量差から荷受け量を測定するトラックスケールや、高性能の色彩選別機を導入しており、米・麦・大豆の荷受けにかかる待機時間の削減や米・麦・大豆の品質向上に期待。
- ・ 宗像カントリーエレベーターの能力を活かし、実需者が求める高品質な米・麦・大豆の生産に取り組む。



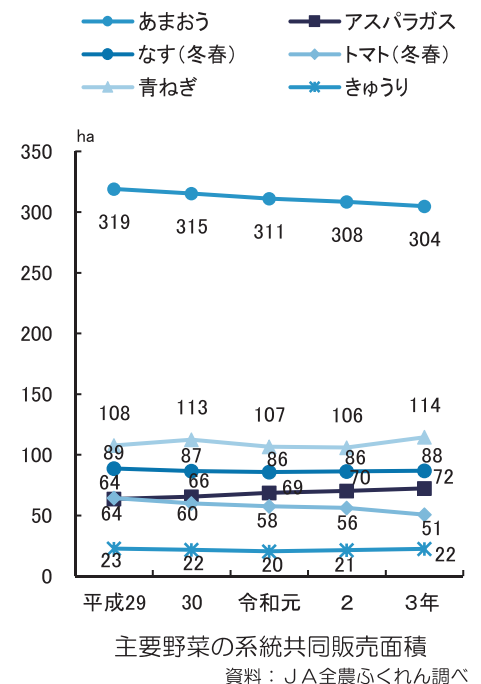
宗像カントリーエレベーター

(2) 園芸・特産

○野菜

(「あまおう」の販売単価は 18 年連続で日本一)

- ・いちご「あまおう」の作付面積は、前年産に比べ 4 ha 減の 304ha。販売量は、前年産に比べ 4 % 減の 10,173 t。販売単価は 1,552 円/kg となり、18 年連続日本一。販売金額は、過去 3 番目に高い 158 億円。
- ・なすは、授粉作業の省力化と収量向上を目的とした省力性品種の導入率が、前年産から 2 ポイント増加の 95%。
- ・アスパラガスの作付面積は、前年産に比べ 2 ha 増の 72ha。1 戸当たりの作付面積は 19.7a と、平成 27 年産と比べて 1.1 倍に拡大。
- ・露地野菜の令和 2 年産作付面積は、前年並みの 3,393ha。

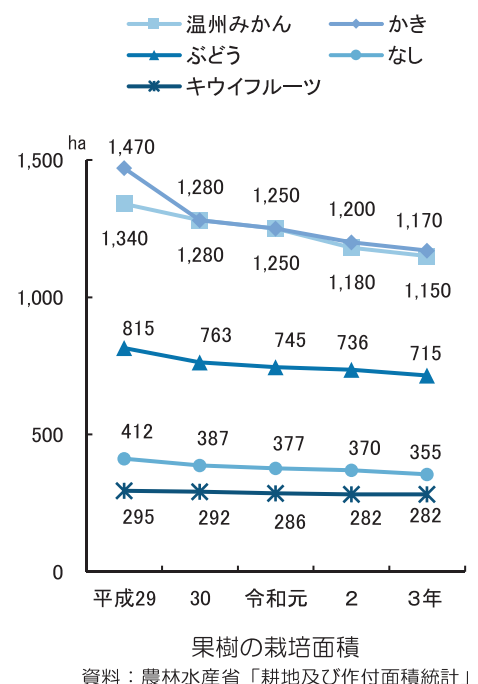


○果樹

(「早味かん」をはじめ、県育成品種の生産量が増加)

- ・温州みかんの栽培面積は、前年に比べ 30ha 減の 1,150ha。高糖度みかんの生産拡大に向けた取組として、県内育成品種「早味かん」や「北原早生」といった優良品種への改植が進み、この 2 品種の栽培面積は前年に比べ 5 ha 増の 176ha。生産量は、前年に比べ 27% 増の 3,166t。
- ・かきの栽培面積は、前年に比べ 30ha 減の 1,170ha。県育成品種「秋王」の栽培面積は、前年並みの 39ha。生産量は、結実向上技術の普及や多日照で生理落果が少なかったことから、前年に比べ 90% 増の 110t。
- ・キウイフルーツの栽培面積は、前年並みの 282ha。県育成品種の「甘うい」の栽培面積は、前年に比べ 1 ha 増の 20ha。生産量は、樹冠※の拡大が進んだことから、前年に比べ 41% 増の 308t。

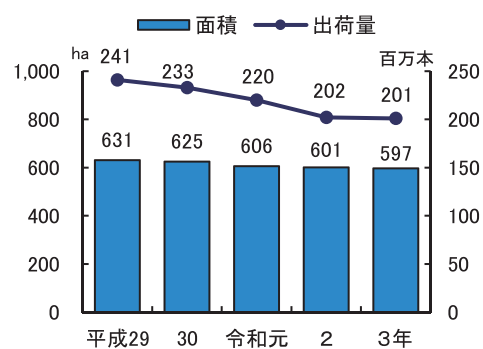
※樹冠：枝・葉の茂っている部分。



○花き・花木

(花きの作付面積、出荷量はともに前年並み)

- ・花きの作付面積は、597ha で前年並み。作付面積全体の4割を占めるキクは、前年に比べ4%減の215ha。
- ・花きの出荷量は、201百万本で前年並み。これは、コロナ禍によるイベントの自粛で需要の減少した状態が続いたことによるもの。



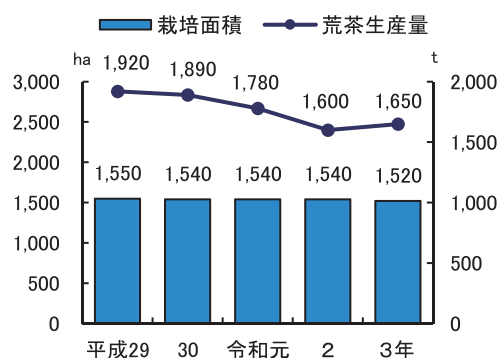
花き出荷量及び面積

資料：農林水産省「花き生産出荷統計」

○特産（茶）

(一番茶（煎茶・玉露）価格は全国一)

- ・茶の栽培面積は前年並みの1,520ha。八女伝統本玉露の栽培面積は、前年に比べ0.6ha減の13.6ha。
- ・「さえみどり」や「おくみどり」といった優良品種への改植を進めた結果、優良品種の栽培面積は、前年に比べ2ha増の194ha。
- ・荒茶の生産量は、前年に比べ3%増の1,650t。
- ・一番茶の荒茶価格は、普通煎茶が前年に比べ6%増の3,164円/kg、玉露が、前年に比べ9%増の5,669円/kgで、いずれも全国一。
- ・八女茶は、令和3年度の全国茶品評会において、八女市が「玉露の部」で21年連続、「普通煎茶4kgの部」で初の産地賞※を受賞。



茶の栽培面積と荒茶生産量

資料：栽培面積は農林水産省「耕地及び作付面積統計」
荒茶生産量は農林水産省「作物統計（工芸作物）」

※産地賞：茶種ごとに成績優秀な市町村に対し褒賞するもので、同一市町村から3点以上出品があり、審査成績の上位3点の合計審査得点をもって決定。

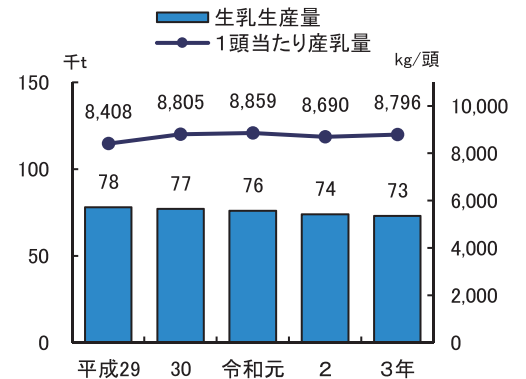
(3) 畜産

○乳用牛

(生乳生産量は前年比 243t 減)

- ・乳用牛飼養頭数は、乳用雌牛の導入価格の高騰や借腹での肉用牛生産により、後継牛が確保できず、前年に比べ 300 頭減の 11,800 頭。1 戸当たりの飼養頭数は、前年に比べ 1 頭増の 62 頭。
- ・生乳生産量は、飼養頭数の減少により、前年に比べ 243 t 減の 73,360 t。
- ・令和 2 年度の高能力牛*の飼養頭数は、乳用牛飼養頭数の減少や暑熱の影響により、前年度に比べ 56 頭減少の 526 頭。搾乳牛全体に占める割合は 11.7%。
- ・経産牛 1 頭当たりの産乳量は、前年に比べ 106kg 増の 8,796kg。

※高能力牛：年間産乳量が 12,000kg 以上の乳牛のこと。

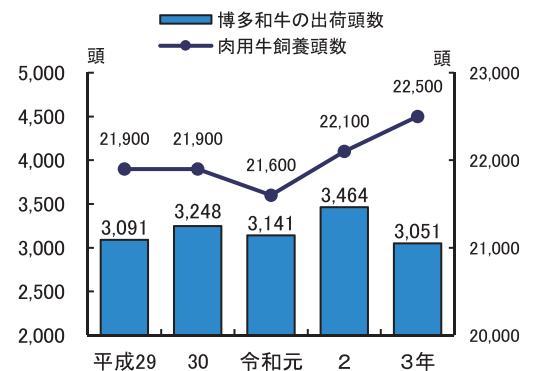


生乳生産量、経産牛 1 頭あたりの産乳量
資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」等

○肉用牛

(「博多和牛」出荷頭数は 413 頭減の 3,051 頭)

- ・肉用牛飼養戸数は、前年に比べ 7 戸減の 191 戸。飼養頭数は、交雑種の増加により 400 頭増の 22,500 頭。1 戸当たりの平均飼養頭数は、9 頭減の 101.8 頭。
- ・「博多和牛」の出荷頭数は、前年に比べ 413 頭減の 3,051 頭。
- ・枝肉価格は、全ての畜種でコロナ禍前の水準まで回復。年平均枝肉価格は、前年に比べ、和牛は 18% 上昇、交雑種は 7 % 上昇、乳用種は 6 % 上昇。

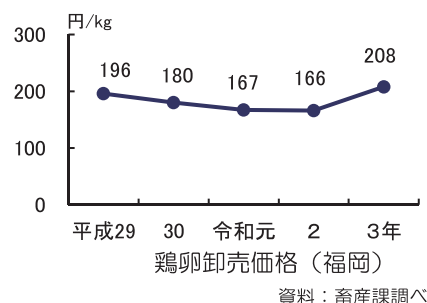
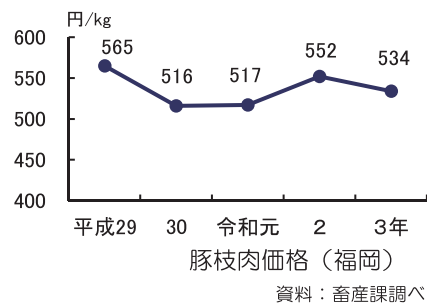


肉用牛の飼養頭数と博多和牛の出荷頭数
資料：畜産課調べ

○養鶏・養豚

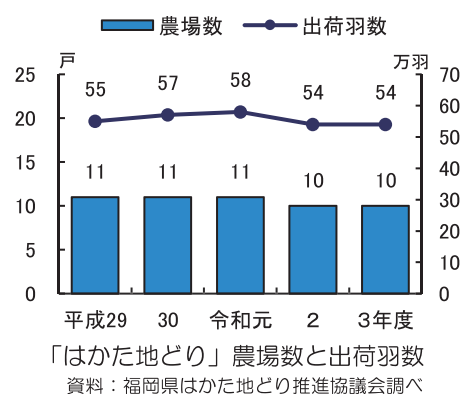
(豚の飼養頭数は 80,300 頭、鶏卵価格は前年比 25%上昇)

- ・豚の飼養頭数は、飼養戸数の減少により前年に比べ 3,091 頭減の 80,300 頭。豚肉価格は、前年に比べ 3 % 低下の 534 円/kg。
- ・鶏卵生産量は、暑熱の影響や飼養戸数の減少により、前年に比べ 4,930 t 減の 46,191t。鶏卵価格は、鳥インフルエンザの影響で全国的に流通量が減少したため、前年に比べ 25%上昇の 208 円/kg。



(「はかた地どり」の出荷羽数は5年連続で九州一)

- ・肉用鶏飼養羽数は、令和2年の鳥インフルエンザの発生に伴う殺処分の影響により、前年に比べ 13 万羽減の 100 万羽。
- ・「はかた地どり」の令和3年度の出荷羽数は、前年度並みの 54 万羽で、地どりの出荷羽数は、5年連続で九州1位を達成。分散飼育によるリスク回避の体制確保や高い飼育管理技術、徹底した衛生管理の取組などが評価され、「はかた地どり」は4年3月31日に地理的表示（GI）※に登録。
- ・「はかた一番どり」の3年度の出荷羽数は前年度並みの 52 万羽。



※地理的表示（GI）：特定の産地と品質等の面で結び付きのある農林水産物・食品といった産品の名称（地理的表示）を知的財産として保護する制度。

○家畜衛生

(防疫資機材を拡充し、家畜防疫体制を強化)

- ・令和2年11月に、県内で初めて高病原性鳥インフルエンザが発生した経験を踏まえて、4年2月に県農林業総合試験場資源活用研究センター（久留米市）内に、防護服やゴーグルといった防疫作業に必要な資材の備蓄倉庫を新設。
- ・この倉庫は、大型の扉と広い間口を備えているため、防疫資材の効率的な搬出が可能。また、倉庫の新設と併せて防疫資材の備蓄を拡充。これらにより、防疫体制を強化。



新設した備蓄資機材の倉庫

(4) 福岡県農業の主要指標

項目	区分	単位	福岡県	全国	全 国 シェア(%)	全 国 ランク	備 考
農 家 数	戸		41,351	1,747,079 (1,709,485)	2.4	19	2020年農林業センサス 注：() は都府県
うち販売農家	戸		27,187	1,027,892	2.6	17	
自給的農家	戸		14,164	719,187	2.0	20	
農業経営体数	経営体		28,375	1,075,705 (1,040,792)	2.6	17	2020年農林業センサス 注：() は都府県
うち個人経営	経営体		27,239	1,037,342	2.6	17	
団体経営	経営体		1,136	38,363	3.0	9	
基幹的農業従事者数	人		38,077	1,363,038	2.8	14	2020年農林業センサス (個人経営体)
うち女性の割合	%		40.3	39.7	—	—	
65歳以上の割合	%		66.2	69.6	—	—	
耕地面積	ha		79,300	4,349,000 (3,206,000)	1.8	15	令和2年耕地面積調査 注：() は都府県
うち水田面積	ha		64,000	2,366,000 (2,144,000)	2.7	14	
畑面積	ha		15,300	1,983,000	0.8	26	
水田率	%		80.7	54.4 (66.9)	—	12	
1戸当たり平均耕地面積	a		191.8	248.9 (187.5)	—	21	注：1戸当たり平均耕地面積 は耕地面積／農家戸数で算出
農業産出額	億円		1,977	89,557	2.2	16	令和2年生産農業所得 統計 注：全国は、都道府県 の合計値
うち米	億円		344	16,551	2.1	17	
麦類	億円		27	521	5.2	3	
豆類	億円		20	712	2.8	5	
野菜	億円		707	22,520	3.1	12	
果実	億円		239	8,741	2.7	11	
花き	億円		159	3,080	5.2	3	
種苗・苗木類	億円		56	697	8.0	1	
工芸農作物	億円		22	1,553	1.4	13	
畜産	億円		383	32,279	1.2	24	
乳用牛飼養頭数	頭		11,800	1,356,000	0.9	18	令和3年畜産統計調査 注：採卵鶏は成鶏めす 羽数
肉用牛飼養頭数	頭		22,500	2,605,000	0.9	26	
豚飼養頭数	頭		80,300	9,290,000	0.9	26	
採卵鶏飼養羽数	千羽		2,920	140,697	2.1	21	
ブロイラー飼養羽数	千羽		1,206	139,658	0.9	20	

(5) 福岡県農業の全国的地位

項目		区分	単位	全国順位 全国計	主産県					全国シェア		全国面積 県面積 (単位:ha)
					1	2	3	4	5	面積	収穫量	
麦類	4 麦 計	t	2	北海道	福岡	佐賀	栃木	愛知		8%	8%	283,000
	(うち小麦)	t	2	北海道	福岡	佐賀	愛知	三重		7%	7%	220,000
	(うち二条大麦)	t	3	佐賀	栃木	福岡	岡山	北海道		15%	16%	38,200
	(うちはだか麦)	t	4	愛媛	香川	大分	福岡	北海道		7%	9%	6,820
野菜	い ち じ く	t	2	栃木	福岡	熊本	長崎	静岡		9%	10%	5,020
	み ず な	t	2	茨城	福岡	京都	兵庫	埼玉		9%	8%	2,490
	冬 春 な す	t	3	高知	熊本	福岡	愛知	群馬		10%	12%	1,050
	セ ル リ ー	t	3	長野	静岡	福岡	愛知	香川		8%	11%	540
	こ ま つ な	t	3	茨城	埼玉	福岡	東京	神奈川		9%	10%	7,550
	し ゅ ん ぎ く	t	3	大阪	千葉	福岡	群馬	茨城		10%	9%	1,830
	冬 春 ト マ ト	t	4	熊本	愛知	栃木	福岡	千葉		3%	4%	3,870
		t	384,600	112,400	39,900	25,900	17,300	15,700		3%	4%	120
果 樹	キウイフルーツ	t	2	愛媛	福岡	和歌山	神奈川	静岡		13%	16%	1,900
	か き	t	3	和歌山	奈良	福岡	岐阜	愛知		6%	8%	18,500
	い ち じ く	t	5	和歌山	愛知	大阪	兵庫	福岡		9%	8%	907
花 き	ガーベラ (切花)	千本	2	静岡	福岡	和歌山	愛知	長崎		14%	13%	78
	き く	千本	3	愛知	沖縄	福岡	鹿児島	長崎		5%	6%	4,258
	トルコギキョウ	千本	3	長野	熊本	福岡	静岡	山形		9%	8%	402
	洋ラン類 (鉢物)	千鉢	3	愛知	熊本	福岡	千葉	山梨		8%	8%	170
	ば ら	千本	4	愛知	静岡	山形	福岡	愛媛		6%	7%	284
		千本	194,400	32,200	19,200	12,900	12,800	10,900		6%	7%	16
そ の 他 作 物 (種 苗 ・ 苗 木 等)		億円	1	福岡	愛媛	三重	北海道	愛知		—	8%	—
特 産	茶	億円	5	静岡	鹿児島	京都	三重	福岡		4%	2%	38,000
	い 草	千枚	2	熊本	福岡					1%	1%	451
注：全国計は主産県の合計										1%	1%	3

注：麦類：3年産作付面積（子実用）・収穫量、野菜：2年産作付面積・収穫量

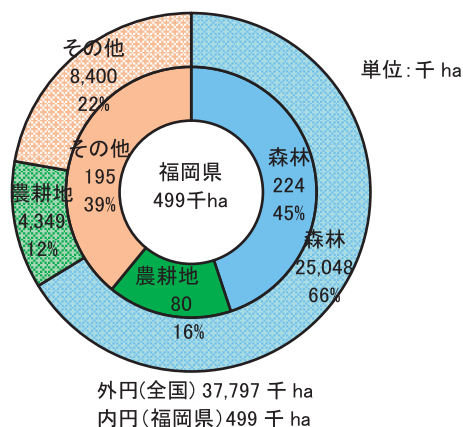
果樹：2年産結果樹面積（いちじくは元年産栽培面積）・収穫量、花き：3年産作付（収穫）面積・出荷量、

種苗・苗木等：2年産出額、茶：2年産出額、3年産作付面積・荒茶生産量、い草：3年産量表生産量・作付面積・収穫量

2 林業

○ 森林率は 45%、全国より 21 ポイント低い

- ・ 本県の森林面積は 224 千 ha で、県土面積に対する森林面積の割合である森林率は 45%。
- ・ これは全国の森林率 66%より 21 ポイント低い。



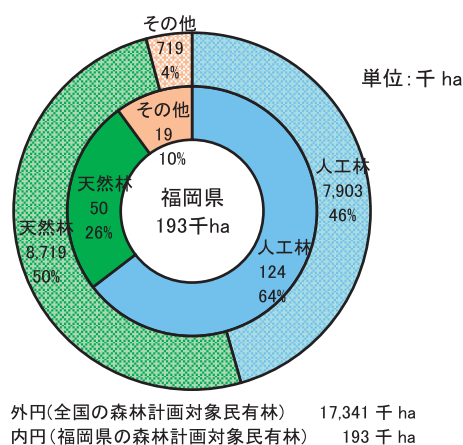
国土・県土に占める森林の面積

資料：福岡県：地域森林計画書（令和 4 年 4 月 1 日現在）
全 国：林野庁「森林資源現況調査（平成 28 年度）」等

○ 人工林率は 64%、全国 2 位

- ・ 本県の民有林における人工林面積は 124 千 ha で、民有林に占める人工林の面積割合を示す人工林率は 64%。これは全国の 46%より 18 ポイント高く、全国 2 位。
- ・ 人工林と天然林を合わせた材積※は 61,015 千 m³。

※材積：木材の体積で、単位は立方メートル。



人工林・天然林別の森林面積

資料：福岡県：地域森林計画書（令和 4 年 4 月 1 日現在）
全 国：林野庁「森林資源現況調査（平成 28 年度）」

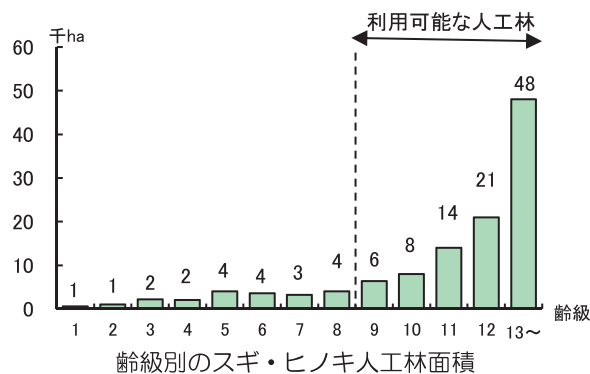
人工林・天然林別の材積

	人工林	天然林	計
全国	2,792,601	1,217,101	4,009,892
福岡県	57,136	3,879	61,015

資料：福岡県：地域森林計画書（令和 4 年 4 月 1 日現在）
全 国：林野庁「森林資源現況調査（平成 28 年度）」

○ スギ・ヒノキ林の 8 割以上が利用期を迎える

- ・ 人工林 124 千 ha のうち、スギ・ヒノキ林は 118 千 ha。
- ・ このうち本格的に利用可能な 41 年生以上の面積は 97 千 ha で、全体の 8 割以上を占める。

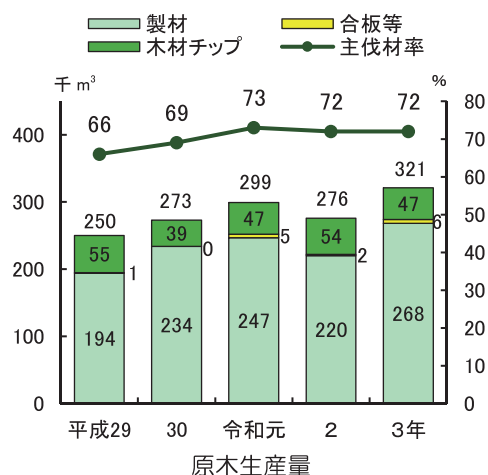


注：年齢の単位は 5 年
資料：地域森林計画書

(1) 林業

(原木生産量は16%増の321千 m^3)

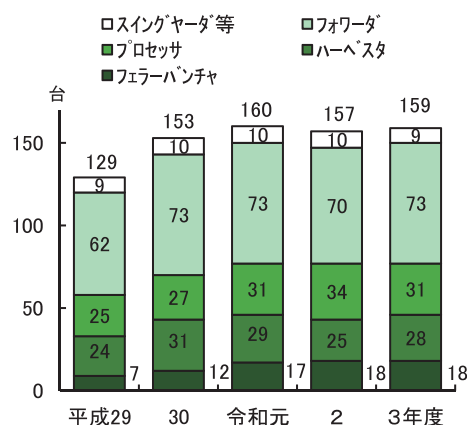
- 令和3年の原木生産量は、主伐経費への助成や高性能林業機械の導入支援による主伐の推進に加え、外国産木材の供給減少で国産材の需要が高まったことにより、前年に比べ16%増の321千 m^3 。
- 原木生産に占める主伐材の割合は前年と変わらず72%。
- 原木の用途別では、製材用が268千 m^3 、合板等用が6千 m^3 、木材チップ用が47千 m^3 。



資料：林業振興課調べ

(高性能林業機械の保有台数は159台)

- 令和3年度の高性能林業機械の保有台数は、159台と前年度から横ばい。
- これは、これまで、県の支援により主要な林業経営体への高性能林業機械の導入が進み、現在、既に導入している高性能林業機械を、大型化・多機能化したものに更新する動きが主流となっているため。
- 従来の約2倍の積載量を持つ大型フォワーダや、伐採・集積・土砂採掘機能を併せ持つ、多機能なフェラーバンチャを導入。



高性能林業機械保有台数（累計）

資料：林業振興課調べ

高性能林業機械の種類

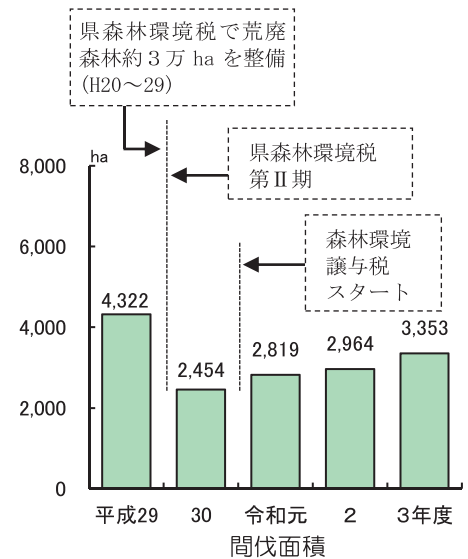
スイングヤーダ		旋回可能な車両にウインチを搭載し、ワイヤーを使った架線集材を行う
フォワーダ		玉切りした木材をグラップルクレーンで荷台に積んで運ぶ
プロセッサ		集材されてきた材の枝払い、測尺、玉切りを行う
ハーベスタ		立木の伐倒、枝払い、玉切りと玉切りした材の集積作業を行う
フェラーバンチャ		立木を伐採し、切った木をそのままつかんで集積する

(間伐面積は 3,353ha に拡大)

- ・令和 3 年度の間伐面積は、前年度に比べ 389ha 増の 3,353ha。
- ・これは、福岡県森林環境税※¹や森林環境譲与税※²を活用して市町村が実施する間伐の取組が進んだことによるもの。

※¹ 福岡県森林環境税：森林を健全な状態で次世代へ引き継ぐため、荒廃した森林の整備に必要な財源として、平成 20 年度に県が創設。

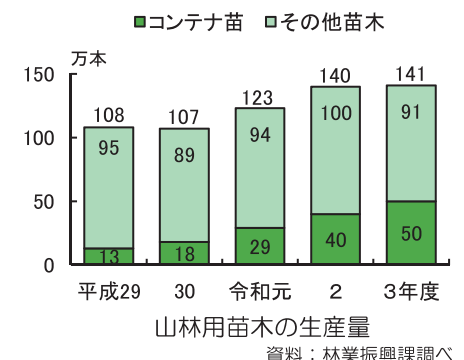
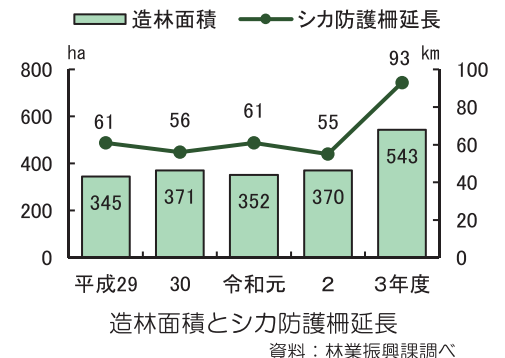
※² 森林環境譲与税：国の温室効果ガス排出目標の達成や災害防止を図る目的で、地方公共団体が行う森林整備や関連事業の推進に必要な地方財源として、令和元年度に国が創設。



(造林面積は再造林が進み 543ha)

- ・令和 3 年度の造林面積は、前年度に比べ 173ha 増の 543ha。
- ・これは、主伐の増加に伴い、再造林が増加したことや、年間を通じて植栽可能なコンテナ苗の生産量が増加したことによるもの。
- ・また、「一貫作業システム※」の導入により、造林作業にかかる費用や作業負担が軽減されたことも要因。
- ・シカによる苗木の食害が多い地域では、苗木を保護するためのシカ防護柵も併せて設置し、3年度の設置延長は 93km。

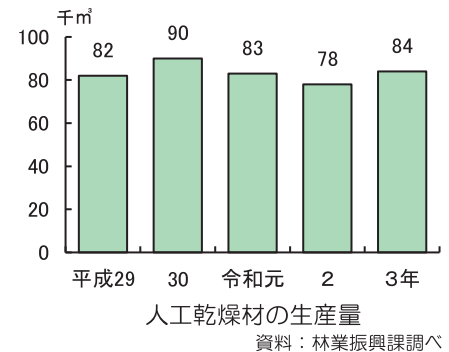
※一貫作業システム：主伐に用いた機械を地拵（じごしら）えや苗木運搬に活用することで、作業負担の軽減と作業期間の短縮が図られる作業システム。コンテナ苗を用いることで、通年植栽による労務の平準化が実現。



(2) 木材産業

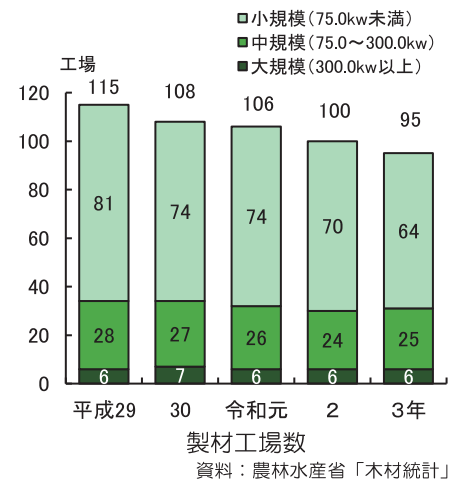
(人工乾燥材生産量は前年に比べ6千³m増)

- ・住宅メーカーや工務店が求める、曲がりや割れの少ない人工乾燥材の令和3年の生産量は、前年に比べ6千³m増の8万4千³m。
- ・これは、外国産木材の供給減少により、国産材の需要が高まったことによるもの。
- ・県内の製材工場で生産している製材品に占める人工乾燥材の割合は、前年並みの32%。



(製材工場数は95工場)

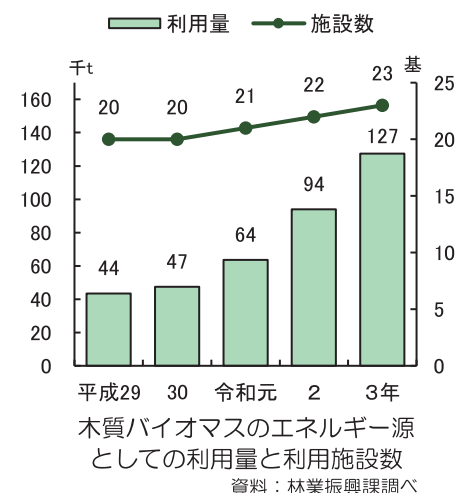
- ・令和3年の製材工場数は、前年に比べ5工場減の95工場。
- ・これを製材品の製造能力別にみると、小規模工場が6工場減少しており、大規模工場、中規模工場は横ばい。



(木質バイオマスのエネルギー源としての利用量が増加)

- ・木質バイオマス※をエネルギー源として利用する施設は、主に温浴施設や発電施設、製材工場の人工乾燥施設で、施設数は前年から1施設増の23施設。
- ・令和3年の利用量は、前年に比べ3万3千t増の12万7千t。
- ・これは、2年の途中から稼働を開始した筑前町の木質バイオマス発電所の通年稼働に加え、苅田町で新しい発電所が稼働を始めたことによるもの。

※木質バイオマス：再生可能な生物由来の有機性資源で、木本類（枝葉を含む）、竹、製材等残材、木質チップ、薪、木質ペレット、建築資材廃棄物。

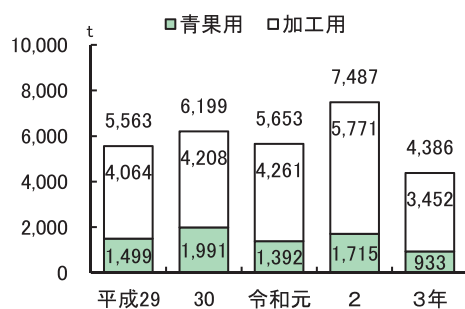


(3) 特用林産物等

(たけのこ生産量は41%減の4,386t)

- 令和3年のたけのこの生産量は、前年に比べ41%減の4,386t。
- これは、冬から春先にかけての、たけのこの発生時期に降雨が少なかったことに加え、主産地の八女地域が裏年※であったことによるもの。

※表年と裏年：竹は、通常2年に一度葉変わりするため、豊作年（表年）と不作年（裏年）が交互に現れる。



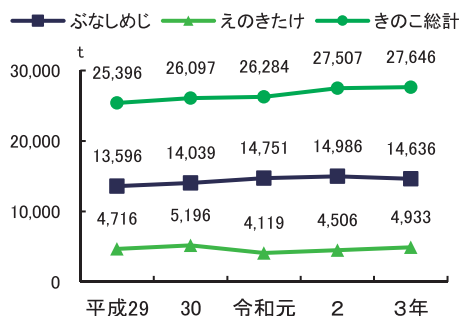
たけのこ生産量

資料：農山漁村振興課調べ

(きのこ類全体の生産量は前年並み、しいたけの生産量は10%増)

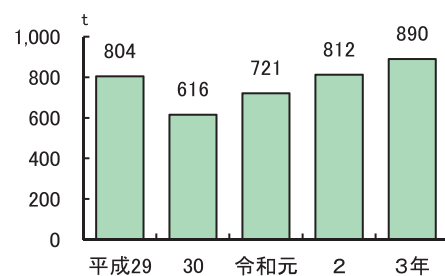
- 令和3年のぶなしめじの生産量は、前年に比べ2%減の14,636t。えのきたけの生産量は、前年に比べ9%増の4,933t。きのこ類※全体では前年並みの27,646t。
- しいたけの生産量は、前年に比べ10%増の890t。
- これは、家庭での需要の増加に対応し、菌床しいたけの生産量を拡大したことが要因。

※きのこ類：生しいたけ、乾しいたけ、なめこ、えのきたけ、ひらたけ、ぶなしめじ、まいたけ、エリンギ、さくらげ類、ぬめりすぎたけ、ゆきれいたけ、王リンギを含む。



きのこ類生産量

資料：農山漁村振興課調べ



しいたけ生産量

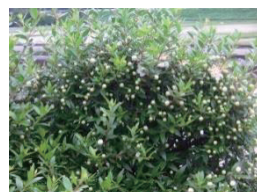
資料：農山漁村振興課調べ

トピック

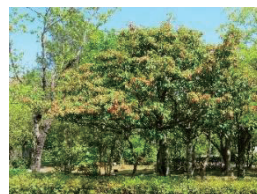
○「福岡県推奨緑化木」としてギンバイカとコバンモチを設定

- 県では、令和3年度、庭木や街路樹に適した新しい緑化木として、ギンバイカおよびコバンモチの2種を「福岡県推奨緑化木※」として設定。
- ギンバイカは、庭木や生垣用として、コバンモチは、シンボルツリーや街路樹用としての活用を期待。
- 木の特長や用途をまとめたリーフレットを作成し、公共事業所管部署や市町村に周知し、広く需要を喚起。

※福岡県推奨緑化木：これまで緑化木としては利用されていなかった樹木から緑化木として活用できる樹種を選定し、今後の活用が更に見込まれる樹種として推奨するもの。



ギンバイカ



コバンモチ

(4) 福岡県林業の主要指標

項目	区分	単位	福岡県	全国	全国シェア (%)	全国ランク	備考
民有林の状況							
面積	千ha	193	17,341	—	—	}	県 : 令和4年4月1日現在(地域森林計画書) 全国: 平成29年3月末現在(森林資源現況調査: 林野庁)
材積	千m ³	61,015	4,009,892	—	—		
造林面積	ha	543	19,540	—	—	}	県 : 令和3年度実績(林業振興課調べ) 全国: 令和元年度実績(2021年森林・林業統計要覧: 林野庁)
間伐面積	ha	3,353	268,000	—	—		
主伐面積	ha	845	77,577	—	—	}	県 : 令和3年度実績(農山漁村振興課調べ) 全国: 令和元年度実績(2021年森林・林業統計要覧: 林野庁)
林道延長(自動車道)	km	1,594	93,484	—	—		
林道密度	m/ha	8.3	5.4	—	—		
林業・木材産業の状況							
森林組合数	組合	9	613	—	—	}	県 : 令和3年3月末現在(団体指導課調べ) 全国: 令和3年3月末現在(令和2年度森林組合統計: 林野庁) 県 : 令和3年3月末現在(団体指導課調べ) 全国: 令和3年3月末現在(令和2年度森林組合統計: 林野庁) 令和3年12月末現在 (令和3年木材統計: 農林水産省)
森林組合員数	人	28,977	1,486,979	—	—		
製材工場数	工場	95	3,948	—	—		
主な林産物生産量							
素材	千m ³	321	21,847	1.5	22	}	令和3年次実績(令和3年木材統計: 農林水産省、林業振興課調べ) 県 : 令和3年次実績(農山漁村振興課調べ) 全国: 令和2年次実績(令和2年特用林産基礎資料: 林野庁) ※しいたけは、生に換算した重量
しいたけ	t	890	86,394	0.9	27		
ぶなしめじ	t	14,636	122,802	12.2	3		
えのきたけ	t	4,933	127,914	3.5	4		
たけのこ	t	4,386	26,449	28.3	1		
木ろう	t	11	21	47.2	1		
林業産出額							
木材生産	千万円	1,457	42,864	—	—	}	令和2年次実績 (令和2年林業産出額: 農林水産省)
薪炭生産	千万円	4	378	1.1	16		
栽培きのこ類	千万円	1,257	22,596	5.6	3		
林野副産物採取	千万円	9	453	2	12		
木材価格							
スギ(中丸太)	円/m ³	15,600	16,100	—	—	}	県 : 令和3年次県森連浮羽事業所実績値 (径18~22cm、4m) 全国: 令和3年次実績 (農林水産統計: 農林水産省)
ヒノキ(中丸太)	円/m ³	25,300	25,900	—	—		
緑化木							
生産本数	千本	3,837	56,444	7.6	3	}	県 : 令和3年度実績(林業振興課調べ) 全国: 平成30年9月現在(緑化樹木の生産事例調査: 林野庁)
生産額	億円	13	—	—	—		

注1: 全国ランク・シェアは、全国の数値の統計年次・年度におけるものを示している。

注2: 「—」印は、シェア算出又はランク付けに適さないもの。

注3: 「年度」は4月から翌年3月まで、「年次」は1月から12月までを表す。

(5) 福岡県林業の全国的地位

項目 \ 区分				単位	全国シェア (%) 全国計	主 産 県					
						1	2	3	4	5	
特用林産物	食用	きのこ類	えのきたけ	t	3.5 127,914	長野 77,230	新潟 19,655	宮崎 －	福岡 4,506	長崎 －	
			ぶなしめじ	t	12.2 122,802	長野 51,965	新潟 23,163	福岡 14,986	香川 －	茨城 3,761	
			まいたけ	t	7.1 54,993	新潟 36,877	静岡 5,366	福岡 3,904	長野 2,763	北海道 2,453	
			エリンギ	t	6.0 38,500	長野 15,193	新潟 12,860	広島 －	福岡 2,293	香川 1,482	
		その他	たけのこ	t	28.3 26,449	福岡 7,487	鹿児島 6,590	熊本 2,921	京都 2,246	香川 989	
	非食用	木ろう		t	47.2 21	福岡 10	愛媛 10	長崎 1	石川 0.2		
		竹炭		t	52.9 451	福岡 239	鳥取 79	熊本 22	徳島 －	山口 10	
	緑化木	生産本数			千 本	7.6 56,444	愛知 17,446	愛媛 10,731	福岡 4,292	東京 4,241	千葉 3,677
		生産面積			a	20.1 388,832	福岡 78,148	熊本 65,326	愛知 33,104	千葉 31,649	東京 31,196

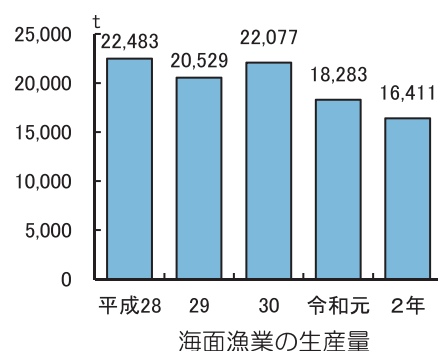
資料：（特用林産物）令和2年林野庁特用林産基礎資料・令和2年次実績
（緑化木）緑化樹木の生産事例調（林野庁）・平成30年9月現在

3 水産業

○海面漁業生産量

（海面漁業生産量（沿岸漁業）は前年比 10%減の 16,411t）

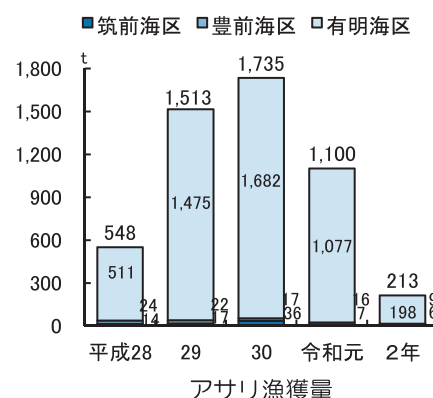
- ・令和 2 年の本県における海面漁業生産量（沿岸漁業）は、アサリやサルボウといった二枚貝類の減少により、前年に比べ 10%減の 16,411t。
- ・主な魚種別の生産量は、マダイが、前年に比べ 28t 増の 2,073t。来遊が少なかったマアジが、前年に比べ 245t 減の 600t、サバ類が、前年に比べ 341t 増の 722t。
- ・主な漁業種類別の生産量は、中小型まき網 3,323t、船びき網 3,265t、さし網 2,307t、小型底びき網 1,058t。



資料：農林水産省統計部「海面漁業生産統計調査」、漁業管理課調べ

（アサリ漁獲量は前年比 81%減の 213t）

- ・令和 2 年のアサリ漁獲量は、前年に比べ 81%減の 213t。これは、有明海において、豪雨により海水の低塩分状態が長期間継続したことに加え、8 月の高水温により資源量が減少したことが主な要因。
- ・有明海では、梅雨前に河川水の影響を受けにくい漁場へのアサリの移植や保護区の設置、網袋を用いた保護・育成といった取組を実施。移植先でのアサリの生残率は高く、へい死を抑制。
- ・豊前海では、網袋を用いたアサリ稚貝の保護・育成の取組を、筑前海では、稚貝の移植放流を実施。



資料：農林水産省統計部「海面漁業生産統計調査」、漁業管理課調べ

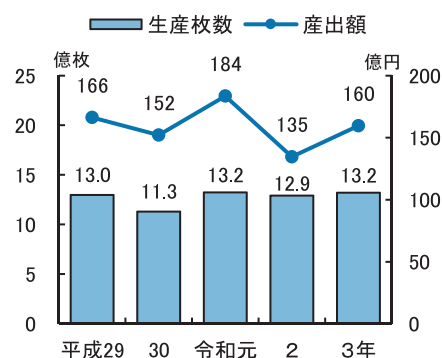
注：四捨五入の関係で総数と内訳が一致しないことがある

○海面養殖生産量

（ノリ生産量は平年並みを維持）

- ・ノリの生産枚数は平年※に比べ 3 %増の 13.2 億枚。県による迅速な海況情報の提供と漁業者への養殖指導を徹底した結果、平年並みの生産枚数を維持。
- ・平均単価は、平年に比べ 0.78 円安の 12.09 円/枚で、生産額は平年に比べ 3 %減の 160 億円。

※生産枚数の平年値：平成 28 年～令和 2 年の 5 か年平均。

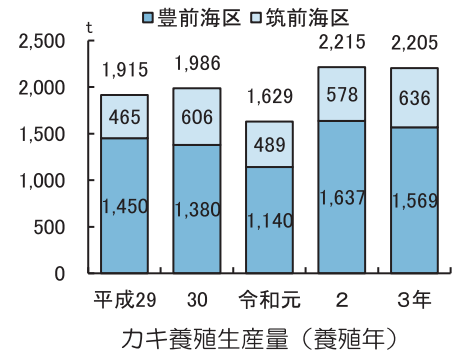


資料：水産振興課調べ

（カキ養殖生産量は平年比 13%増の 2,205t）

- ・カキの養殖生産量は平年※に比べ 13%増の 2,205t。
- ・これは、海況が安定していたことに加え、県の指導に基づく食害防止対策や養殖管理が徹底されたことにより、順調に成長したことが要因。

※生産量の平年値：平成 28 年～令和 2 年の 5 か年平均。

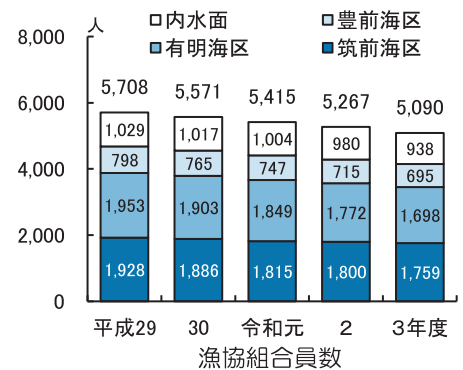


資料：水産振興課調べ

○漁業協同組合員数

（漁業協同組合員数は 5,090 人）

- ・漁業協同組合員数（内水面を含む）は、前年度に比べ 3 %減の 5,090 人。
- ・筑前海区が 1,759 人、有明海区が 1,698 人、豊前海区は 695 人、内水面は 938 人。



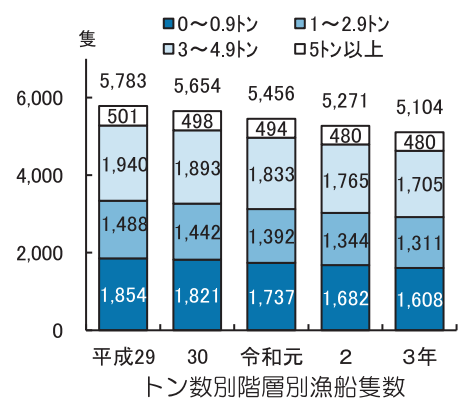
資料：漁業管理課調べ

注：令和 3 年度は速報値

○漁船隻数

（漁船隻数は 5,104 隻）

- ・漁船隻数は、前年に比べ 3 %減の 5,104 隻。
- ・小規模漁業を営む 5 トン未満の船が 4,624 隻で全体の 91%を占める。



資料：漁業管理課調べ

(1) 筑前海区

(サワラ、マサバは好調、カキ、真珠は平年並みを維持)

- ・令和3年度の漁船漁業の漁獲量は、サワラ、マサバは平年を上回り好調、マアジは平年並み。
- ・カキ養殖は、成育が順調で、生産量は平年並み。真珠養殖は、前年度に引き続き平年並みの生産。
- ・クルマエビ 133 万尾、アワビ 46 万尾、アカウニ 24 万尾、トラフグ 32 万尾の種苗放流を実施。

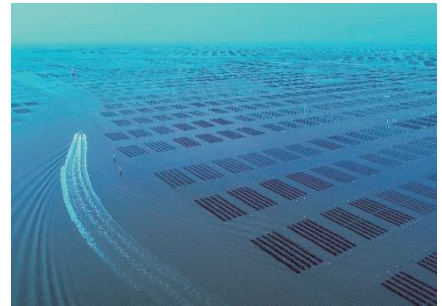


水揚げされたマサバ、マアジ

(2) 有明海区

(ノリの生産量は平年並み、クラゲは好調)

- ・令和3年度のノリ養殖の生産枚数は、平年に比べ3%増の13.1億枚。平均単価は、平年に比べ0.79円安の12.06円/枚で、生産額は平年に比べ3%減の158億円。
- ・クラゲは平年を大きく上回り好調。ガザミ、シバエビは平年に比べ好調。
- ・アサリは減少した資源の早期回復に向け、稚貝を増やすために砂利袋などを設置。
- ・クルマエビ 100 万尾、ガザミ 206 万尾の種苗を放流。



ノリの漁場



砂利袋の設置作業

(3) 豊前海区

(サワラ、コウイカ、ナマコの漁獲が好調)

- ・令和3年度の漁船漁業の漁獲は、サワラやコウイカ、ナマコが好調。ヨシエビ、シバエビは平年並み。
- ・カキ養殖は、成長、身入りとも良好で、順調に生産。
- ・水産資源の維持に向け、クルマエビ 118 万尾、ヨシエビ 190 万尾、ガザミ 198 万尾の種苗放流を実施。また、卵を持った雌のガザミの甲羅に「トルナ」と書いて、海に戻す取組を継続。



漁獲好調だったナマコ



ガザミの放流種苗

トピック

○ 堅調な家庭内需要に対応し、ヨシエビ冷凍商品を開発

- ・ヨシエビは体長 10～15cm ほどの中型のエビで、豊前海では冬期の「けた網※」漁で漁獲される地元で人気の高い水産物。
- ・県では、豊築漁協と共同で、活きたヨシエビを氷水に入れて鮮度を保持し、真空パックで急速冷凍することで、長期保存と生食が可能な商品を開発。
- ・家庭向け商品として、地元の直売所「うみてらす豊前」で販売するほか、直売所交流として宗像市の「道の駅むなかた」に併設された「宗像観光おみやげ館」でも販売。購入者からは「甘くぷりぷりとして美味しい」と好評。

※けた網：小型底びき網の一種で、爪の付いた鉄枠の漁具を使い、海底を掘り起こしてエビや貝を漁獲する漁具



開発したヨシエビ冷凍商品

(4) 内水面

(内水面漁業生産量は平年並み)

- ・令和3年度のアユやエツの漁獲量、コイやウナギの養殖生産量は、それぞれ平年並み。
- ・アユ 40 万尾、エツ 37 万尾の稚魚や稚エビ、稚ガニ等を、県内の河川に放流。また、筑後川、矢部川ではアユの産卵場をそれぞれ2か所造成。
- ・コイヘルペスウイルス病（KHV）は、養殖場や新たな天然水域での発生なし。
- ・錦鯉は、県が養殖指導を行い、イギリス、ベトナム、タイなど17か国に輸出。



アユさし網漁

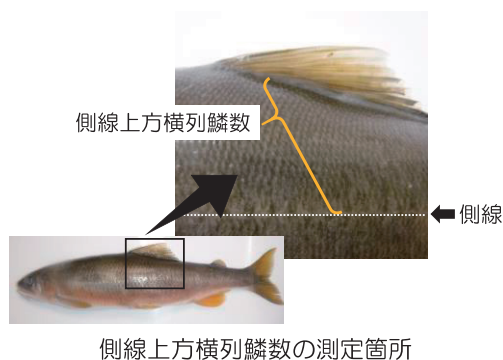


人工生産したエツの稚魚

トピック

○ 人工アユの放流効果を確認

- ・県内の主要河川では、陸上水槽で育てた稚アユ（人工アユ）を放流し、資源を増やす取組を実施。
- ・放流効果を確認するためには、河川で生まれ育った天然アユと人工アユを見分けることが必要。
- ・そこで、県では、背中の鱗の数（そくせんじょうほうよこれつりんすう側線上方横列鱗数）や下あごにある穴（かがく下顎側線孔）の並び方で両者を判別する方法を用い、矢部川で漁獲されたアユを判別したところ、約半数が人工アユであることが判明、人工アユの放流効果が高いことを確認。



天然アユ
4対が整列



人工アユ
4対が不揃いあるいは欠損
下顎側線孔の状態

(5) 福岡県水産業の主要指標

項目	区分	単位	県合計	海面漁業			内水面	全 国 ランク	備 考	
				計	筑前海	有明海				豊前海
経 営 体 数	経営体		2,434	2,386	1,226 ^{*1}	794	366	48	12	平成30年値 (2018年漁業センサス) *1:筑前海には遠洋・沖 合漁業を含む
就 業 者 数	人	—	4,376	1,917 ^{*2}	1,880	579	—	—	12	平成30年値 (2018年漁業センサス) *2:筑前海には遠洋・沖 合漁業を含む
	うち男性	人	—	3,633	1,811	1,403	419	—	12	
	うち女性	人	—	743	106	477	160	—	8	
水 域 面 積	km ²	—	—	約7,000	171	930	河川 延長 2,205km	—	—	水域面積 (筑前海) ・隣接県との主要な陸地 間、島間の中間線を結 ぶ線に囲まれた本県漁 船が操業する水域の面 積 (有明海・豊前海) ・共同漁業権漁場の面積 (内水面) ・県土整備部河川管理課 資料 ・農林水産部農村森林整 備課資料
海 岸 線 の 長 さ	km	—	—	420	47	109	人工湖 31か所	—		
最 大 水 深	m	—	—	120	15	15	溜池 4,777か所	—		
共 同 漁 業 権 免 許 件 数	件	77	64	52	6	6	13	—	—	令和4年3月31日現在 (漁業管理課調べ、水産 振興課調べ)
区 画 漁 業 権 免 許 件 数	件	175	153	54	63	36	22	—		
漁 船 数	隻	5,104	4,949	2,104 ^{*3}	2,268	577	155	—	—	令和4年3月31日現在 (漁業管理課調べ) *3:筑前海には遠洋・沖 合漁業を含む
漁 協 数	漁協	43	34	7	19	8	9	—	—	令和4年3月31日現在 (漁業管理課調べ)
漁 組 合 員 数	人	0	0					—		
漁 生 産 量	t	71,079	70,800	70,800			279	17	17	令和3年値 (農林水産省「漁業・養 殖業生産統計(概数)」、 漁業管理課調べ、水産振 興課調べ)
	漁船漁業 生産量	t	23,980	23,900	23,900		80	23		
	養殖業 生産量	t	47,099	46,900	46,900		199	10		
漁 産 出 業 額	百万円	30,887	30,549	7,402	21,010	2,137	338	16	16	令和2年値 (農林水産省「漁業産出 額」、漁業管理課調べ、 水産振興課調べ)
	漁船漁業 産出額	百万円	9,012	8,888	6,705	975	1,208	124	25	
	養殖業 産出額	百万円	21,875	21,661	697	20,035	929	214	10	

注1：全国ランクは海面漁業の数値で比較。

注2：四捨五入の関係で、計と内訳は一致しないことがある。

(6) 福岡県水産業の全国的地位

区分 項目	単位	全国シェア 全国計	主産県				
			1	2	3	4	5
マダイ	t	13.8% 15,013	福岡 2,073	長崎 1,864	兵庫 1,664	愛媛 1,187	山口 693
イサキ	t	10.6% 3,384	長崎 1,066	福岡 359	山口 320	三重 219	島根 201
チダイ	t	18.2% 2,077	福岡 378	長崎 372	宮城 216	新潟 119	島根 106
キダイ	t	4.9% 3,605	長崎 1,655	島根 561	山口 461	福岡 175	福井 119
クロダイ	t	7.1% 2,353	兵庫 434	愛知 260	大阪 170	広島 167	福岡 166
アナゴ類	t	7.3% 2,739	長崎 557	島根 509	宮城 229	福岡 200	山口 186
フグ類	t	4.8% 3,845	北海道 927	石川 466	山口 287	新潟 234	福岡 186
ガザミ類	t	9.3% 2,092	愛知 640	宮城 337	福岡 194	長崎 105	愛媛 104
アサリ類	t	4.9% 4,305	愛知 1,602	北海道 1,460	静岡 707	福岡 213	長崎 103
アワビ類	t	7.8% 669	岩手 119	宮城 63	千葉 56	福岡 52	愛媛 47
クルマエビ	t	13.1% 245	愛知 75	愛媛 56	福岡 32	大分 22	熊本 15
タコ類	t	3.1% 32,659	北海道 20,994	兵庫 1,570	宮城 1,153	岩手 1,057	福岡 1,001
ノリ養殖	生産枚数 (百万枚)	20.7% 6,372	佐賀 1,713	福岡 1,319	兵庫 1,206	熊本 998	宮城 262
	産出額 (億円)	21.4% 749	佐賀 218	福岡 160	兵庫 133	熊本 117	宮城 26

資料：農林水産省「漁業・養殖業生産統計」、漁業管理課調べ、水産振興課調べ

注：ノリは令和3年養殖年（令和3年10月～4年4月）を、その他は令和2年の数値を表示。